

●スライド 1

●スライド 2

2018 年、私たちは世界の食肉業界でのトッププレーヤーになるために、サステナビリティへの取り組み、新しい戦略、そして明確な目標設定に着手しました。

●スライド 3

私たちのサステナビリティ戦略は、そのリスクと可能性を精査するマテリアリティ・アセスメントをベースにしています。そのアセスメントとは内部と外部でアセスメントを行うことです。一つは内部で問題・課題を把握すること、そしてもう一つは外部関係者との対話を通じてアセスメントを行なうことです。

外部関係者とは次のとおりです。

- 取引企業
- 消費者
- NGO
- 銀行

その目的はリスクと可能性を正確に把握することです。

このスライドでは、「極めて高いリスク」と「高いリスク」のみを示しています。

それらのリスクは、ESG リスク、つまり、環境 (E) ・社会 (S) ・ガバナンス (G) に関連するリスクに分類されています。リスクには次のようなものがあります。

- CO2e (温室効果ガスが地球温暖化に与える影響)
- 生物多様性
- 健康と安全
- 人権と労働者の権利
- 不正な行為の防止

●スライド 4

このマテリアリティ・アセスメントに基づき、『Feeding the Future』と言われるサステナビリティ戦略を策定しました。

この戦略は 4 つのセグメントで構成されています。

- 持続可能な農業であること
- 持続可能な食料生産であること
- 従事する全ての人々にとって良い仕事であること
- 取引企業と消費者とともに営まれること

私たちの戦略は、国連が掲げる SDGs の 17 の目標のすべてに対してではありませんが、私たちが達成し得る範囲で SDGs と連動しています。

●スライド5

この戦略はこれらの4つに分類されています。

- ・ 持続可能な農業であること
- ・ 持続可能な食料生産であること
- ・ 従事する全ての人々にとって良い仕事であること
- ・ 取引企業と消費者とともに営まれること

それぞれの分野で各3つの方策、つまり、全部で12の方策を立てました。

「持続可能な農業」では、CO2削減、動物福祉と農場の防疫対策、生物多様性に取り組みます。

「持続可能な食料生産」では、CO2削減、生産拠点で発生する食品ロスと廃棄物の削減、責任の持てる原材料の調達に取り組みます。

3つ目の「従事する全ての人々にとって良い仕事」では、従業員の安全（事故の削減、運動器疾患の削減など）、社会的責任、およびグローバルな倫理基準の遵守に取り組んでいます。

最後の「取引企業と消費者とともに」では、持続可能で健康的な製品（低抗生物質、高度な動物福祉、低CO2排出量などの製品）を顧客に提供することに取り組みます。しかし、そのためには製品のLCA（ライフサイクルアセスメント）計算、銀行やNGOとの継続的な協議を行なえるよう、適切なデータ収集とその活用システムを構築しなければなりません。

それでは、サステナビリティの重要な取り組みであるCO2削減について話をしていきます。そして、生物多様性と飼料用大豆についても触れていきたいと思えます。

●スライド6

●スライド7

私たちのCO2削減の取り組みには、2つのアプローチがあります。

取引企業に対しては、生産拠点だけでなく、川上から川下（原材料等の仕入から生産時の廃棄物処理等）まで含めたサプライチェーン全体でのCO2の削減に取り組んでいます。これまでは2005年対比で50%の削減目標を掲げてきましたが、その目標を変更しました。これについては、次のスライドで説明します。

消費者（製品）に対しては、個別の製品の具体的なCO2排出量です。

●スライド 8

取引企業に対しては、私たちの目標である CO2 排出量の削減です。

2022 年 11 月時点での目標は、2005 年比で 2030 年までに 50%削減することでした。

2021 年 9 月に『Science Based Targets（科学的根拠に基づく目標設定）』を表明し、温室効果ガス排出削減目標を設定しましたが、2022 年 7 月にその妥当性の確認を行なった結果、新たな CO2 削減目標を 2022 年 11 月に設定し、承認されました。

『Science Based Targets』は、CDP（カーボン ディスクロージャー プロジェクト）という取引企業ごとのデータを収集・管理し分析するシステム、そして国連グローバルコンパクト（国連が企業に実践を呼びかける 10 項目の原則、持続可能な成長を実現するための枠組み）や世界資源研究所（WRI）、世界自然保護基金（WWF）との協力関係にあります。

この目標は、CO2 排出量をパリ協定と同レベルまで引き下げることです。

私たちは『Science Based Targets』に取り組んでいる数少ない食肉加工会社です。

●スライド 9

『Science Based Targets（科学的根拠に基づく目標設定）』の削減目標は 2 つに分かれています。

一つ目の目標である「スコープ 1」と「スコープ 2」については、私たちが購入し使用するエネルギー（電気、ガス）や資源（燃料、冷媒）など、私たちの管理下にある全てものに関する目標です。

二つ目の目標である「スコープ 3」については、川上から川下（原材料等の仕入から生産時の廃棄物処理等）まで含めたサプライチェーン全体に関する目標です。これには、物流チェーン、包装材料、農場レベル、飼料レベルまで含まれます。

●スライド 10

2022 年 11 月、私たちの SBTi（科学的根拠に基づく削減目標イニシアチブ）は承認されました。世界で 4,837 社の企業が SBTi への参画を表明していますが、すでに SBT に基づく目標を設定しているのは世界で 2,489 社だけです。

『Science Based Targets』により、私たちは 2030 年までに 250 万トンの CO2 を削減することを表明しました。

それは大幅な削減目標です。

●スライド 11

以前の目標は、2030年までにCO₂を50%削減（2005年対比）することでした。「50%削減」は、バリューチェーン全体での削減を意味します。

新たなSBT（科学的根拠に基づいた目標）では、「50%削減」に代わるものとして、2つの目標を設定し、対比する年も2005年から2020年に変更しました。

その2つの新たな目標とは・・・

目標1：42%削減（スコープ1、2）

目標2：20%削減（スコープ3）

対比する年の変更と目標の追加により、達成に向けた私たちの熱意はさらに向上しました。

スコープ1とスコープ2の主な解決策は、生産拠点における各工程の電化です。それに加えて、ガスから天然ガスへの切り替え、さらにエネルギーミックス（電気を作るために使用するエネルギー源）を再生可能なものに変更することも検討しています。これらの取り組みにより、42%の削減を目指します。

スコープ3では、幅広い取り組みを行ないません。輸送段階および農場レベルでのCO₂削減であり、それに加え、2030年までに確実に達成するために、原材料等の生産者とのコミュニケーションをとり、きちんとした生産者のみとお付き合いしていきます。

●スライド 12

今後、私たちはCO₂排出量を毎年開示していきます。これは2020年のデータです。スコープ1と2（生産時の排出量）はサプライチェーン全体では総排出量の3%に過ぎません。

総排出量の約85%が農場で、輸送段階では2%です。そして、梱包材が3%で残りの5%はその他に起因します。

この図のとおり、スコープ3、特に農場での削減に重点を置く必要があります。

●スライド 13

消費者（製品）に対しては、個別の製品の具体的なCO₂排出量です。

●スライド 14

私たちは強力なライフサイクルアセスメント（LCA：製品の原料調達から製造、輸送、販売、さらには廃棄、再利用に至るまでの一連のライフサイクルにおける環境負荷を算定するための手法）を取り入れており、自社の生産だけでなく、製品のサプライチェーン全体にも対応しています。

その対象は下記のとおりです。

- デニッシュクラウン自身の活動
- 養豚農家(デンマーク、スウェーデン、ドイツ、ポーランド)
- 養豚に使用される飼料
- 物流（川上、川下含む）
- 包装材料

これにより、バリューチェーン全体の基礎データを取得することが出来ます。

●スライド 15

私たちのシステムは、個別の農場から製品をお客様に届けるまでのサプライチェーン全体を追跡することができます。

単一の農場または農場のグループから出荷される豚群から、特定の食肉処理場で屠畜・処理し、または加工し、お客様に届けるところまで追跡することができます。

また、顧客データをシステムに取り込み、最終製品がそのお客様から出荷される時点までの全ての CO2 排出量を算出することもできます。

この柔軟性のあるシステムにより、ユーザーであるお客様も CO2 排出量を消費者に直接アピールすることができます。

●スライド 16

これは個別の商品データの一例です。

私たちが使用しているシステムは、第三者機関によって検証済みです。

●スライド 17

先程、バリューチェーン全体での CO2 排出量の概要マップをスライド 12 で示しましたが、総排出量の 85%は農場からの排出でした。

農場での取り組みの進捗状況を確認する方法として、『クライメートトラック』というプログラムがあります。これは、私たちに豚を供給する農家向けの独自のサステナビリティプログラムです。これは、デンマーク、スウェーデン、ドイツ、ポーランドで取り入れられています。このプログラムの当初の概念は気候変動に関してのみでしたが、現在は ESG（環境、社会、ガバナンス）にも対応するプログラムになっています。

私たちの生産者は全員『クライメートトラック』に参画しています。つまり、みなさんに提供される肉も『クライメートトラック』の産物です。

●スライド 18

前述のように、『クライメートトラック』は単に気候変動のみに関するものではなく、ESG（環境、社会、ガバナンス）にも対応するものに進化しました。農家から 250 項目のデータを収集することになっています。データには次のものが含まれます。

- 環境・エネルギー
- 気候変動 CO2 排出量
- 動物福祉
- 抗生物質
- 社会的責任

そして最近、これに生物多様性に関する内容を追加しました。これにより、さらに 30 以上の項目のデータ収集が追加されています。

『クライメートトラック』は、第三者機関にも認定されています。

●スライド19

CO2 排出量削減と『クライメートトラック』をより連動させるために、次の3つに取り組んでします。

- 農場でのトレーニング - 例えば、飼料効率に関する教育
- 農場への投資 - 例えば、トーチ型バーナーの設置
- 公共投資 - 例えば、大学でのメタンガス発生量削減プロジェクトに対して、私たちが農家を代表して投資します。

●スライド20

2030年に向けて、すでに私たちは農場での取り組みに関する明確な道筋を立てています。

2030年以降についてもいくつかの計画はありますが、それには大学との協力関係をさらに強化する必要があります。

ここにあるのは具体的ロードマップの一部ですが、（赤色で示した）2022年から2030年にかけて温室効果ガスの排出量減少を見込んでいることが分かります。

私たちは『クライメートトラック』を通じて農場での実施内容を確認することが出来ます。例えば、トーチ型バーナーを設置した農家の戸数を追跡することができます。

また、報告されたデータに基づいて、その導入効果を追跡することもできます。

『クライメートトラック』プログラムによって、CO2 排出量の削減と農家での取り組みに関するロードマップは順調に進み、SBT（科学的根拠に基づく目標）を達成できると確信しています。

●スライド21

スコープ3の包装材料に関するCO2削減の取り組みの一例をご紹介します。現在、左側の写真にある白色の外箱を使用しています。これを右側の茶色い箱に変更することによって、年間650トンのCO2を削減することが可能です。さらに箱材料のリサイクルについても、現在の74%に対して、84%のリサイクルが可能になります。

●スライド22

生物多様性（人間などの動植物から、菌類などの微生物まで、地球上に生息するすべての「いきもの」たちが支えあいバランスを保っている状態のこと）という言葉が最近聞くようになってきました。

私たちは、生産者と協力して、自然と手を取り合った現代の農業生産をサポートしたいと考えています。

●スライド 23

私たちは生物多様性プログラムを開発し、農場での生物多様性の増減を確認しています。主な取り組み内容は次のとおりです。

- カブトムシや昆虫の生息地である保護区域、古木、草原、狩猟小屋、牧草地を保護・確保します。
- 自然地域で放牧されている牛の糞に使用する駆虫剤の使用を最小限に抑え、牛の糞に群がるカブトムシやハエの数を増やします。
- 自然地域での牛の放牧を増やし、牧草地とその周辺に生息する野生動物や植物の生命を支えます。
- 保護地域と脆弱な生息地に沿って緩衝地帯を作ります。
- 自然保護のための土地を購入または賃貸により、環境への影響を軽減します。

この取り組みは次の3つのステップですすめています。

ステップ 1 - 外部機関と協力し、計画を作成します。私たちはデンマークのオーフス大学とスウェーデンのSLU（スウェーデン農業大学）と Rise（スウェーデン国立研究所）でそれを行ないました。そして、私たちは生物多様性を『クライメートトラック』に組み込みました。

ステップ 2 - スウェーデンとドイツで現在実施中です。

ステップ 3 - ドイツとポーランドへの拡大。これは次のステップであり、2025年に開始する予定です。

●スライド 24

つまり、私たちの生物多様性の取り組みは下記のとおりです。

- 『クライメートトラック』プログラムへ組み入れること。
- デンマークのオーフス大学とスウェーデンのSLU および Rise との共同研究。
- 農場での生物多様性の増加または減少の確認。

●スライド 25

●スライド 26

大豆生産は南米の森林伐採と大きく関係しています。私たちは森林伐採を止めるよう働きかけるだけでなく、食肉産業における公平な競争のためにも取り組んでいます。

そのため、私たちは、RTRS（責任ある大豆に関する円卓会議）のメンバーであるだけでなく、Danish Soy Alliance（デンマーク大豆連合）や UK Soy Manifesto（英国大豆マニフェスト）などの組織のメンバーでもあります。

そして、森林伐採をしないサプライチェーンに関する新たな EU 規制を支持しています。

●スライド27

2022年、私たちは森林伐採に関する新政策に着手しました。その目的は私たちのバリューチェーンにおいて、森林伐採によって生産されたものを使用しないことです。その政策を確実に実行するために、同事業を展開している国（デンマーク、ドイツ、スウェーデン、ポーランド）ごとに詳細な行動計画とロードマップを作成しました。

●スライド28

デンマークでの飼料用大豆に関するロードマップを策定しました。

- 2019 デンマーク大豆連合に加入し、森林伐採のない大豆の調達を目指します。
- 2020～2025 2025年までの間、大豆についてはRTRS（責任ある大豆に関する円卓会議）の大豆保有枠を使用します。
- 2020～2025 FEFAC（欧州飼料製造者連盟）のガイドラインに沿った大豆の確保の増加に伴い、その大豆保有枠の使用量を減らしていきます。
- 2021～2025 森林伐採のないことの認定および検証済みの大豆の使用を増やしていき、2025年までに信頼のおける生産者からの大豆を100%使用します。
- 2020～2025 大学と協力して、大豆に代わる新たなたんぱく源を探します。
例えば、草のたんぱく質や藻類などです。

●スライド29

他の国々（ポーランド、スウェーデン、ドイツ）の飼料用大豆に関するロードマップも策定しました。

私たちはこれまでScience Based Targets（科学的根拠に基づく目標設定）に取り組んできましたが、2025年にFLAG（森林、土地、農業に関する）の新たな基準と新たなEU規制を取り入れる予定です。

そのため、2025年にはデンニッシュクラウンから提供される豚肉は、100%森林伐採のない飼料で肥育されたものであることを保証します。

●スライド30

ご清聴ありがとうございました！